「公共政策フォーラム　2005　イン　北九州・若松」

参加申込、宿泊案内は、ここからダウンロードできます。

フォーラムのチラシができました（PDF, 1.2MB)。

大会報告書をアップロードいたしました（PDF, 48MB)。

関連資料（地図）（PDF, 1.3MB)

フォーラムの概要

名　称　公共政策フォーラム2005イン北九州・若松
期　間　平成17年11月26日(土)～28日(月)
場　所　若松市民会館（北九州市若松区本町3-13-1）
主　催　公共政策ﾌｫｰﾗﾑ2005ｲﾝ北九州･若松実行委員会
参加費　無料（視察、交流会は別途参加費が必要）
参加者　日本公共政策学会会員、地元自治体関係者、地元学校関係者、政策コンペ参加学生、市民
事務局　北九州市建築都市局開発調整部計画調整課 上田、石橋(TEL:093-582-2864, FAX:093-582-2503)

中心市街地は、さまざまな都市機能が集積し、生産、交流、生活等の諸活動が活発に行われ、都市の経済、社会の発展に寄与する重要な地域です。

しかしながら、近年、郊外部での住宅開発の展開、モータリゼーションの進展、消費者のライフスタイルの変化等を背景として、中心市街地の空洞化現象が深刻化してきており、中心市街地の再活性化は、官民の協働で解決すべき社会的課題のひとつとなっています。

北九州市若松区では、石炭産業の発展とともに、海運と陸運の結節地として開けた歴史の中で中心市街地が形成されてきたものの、時代の変化に伴って中心部の活力は低下してきています。その一方で、環境産業の創出と育成を目的とした北九州エコタウン事業や環黄海圏のハブポートを目指したひびきコンテナターミナルの整備など、新たな事業が展開されており、こうした背景の中で、中心市街地の再構築への取組みが進められています。

今回のフォーラムは、「新しい地域経営モデルの提案ー私が挑戦した改革の数々ー」をテーマとする地域活性化に資する基調講演を受け、北九州市若松区をケーススタディに、中心市街地の活性化の方向性とあり方、人材育成と活用、官民の協働、住民参加など、再生の方法論について、新進気鋭の学者と実務家を招きパネルディスカッション形式で議論を行う予定です。

公共政策フォーラム企画実行委員長　横須　賀徹

公共政策フォーラム2005 イン北九州・若松

プログラム

11月26日(土)　学生政策コンペ

13:30～18:00 テーマ「環境を考慮したまちの活性化策」

11月27日(日)「フォーラム」

オープニング 13:00〜13:30　学会会長挨拶、開催市挨拶

基調講演

13:40〜14:40　北川正恭氏（早稲田大学大学院教授、前三重県知事）
「新しい地域経営モデルの提案　ー私が挑戦した改革の数々ー」

学生による政策コンペ発表
14:50〜15:20　パネルディスカッション
15:30〜17:20　「若松地区の中心市街地活性化はどうあるべきか？」

◎パネリスト
小林　秀氏（中央大学大学院公共政策研究科教授）
根岸裕孝氏（宮崎大学教育文化学部助教授）
矢部拓也氏（徳島大学総合科学部助教授）
森田　光氏（シャボン玉石けん(株)社長）
竹内裕二氏（ＮＰＯまちのカルシウム工房理事長）

◎コーディネーター
齋藤貞之氏（北九州市立大学経済学部長）

交流会　18:00〜19:30　旧古河鉱業若松ビル

11月28日(月)「エクスカーション(視察)」
9:00〜14:00　北九州市内

学生政策コンペの参加募集

今年で3回目になります「学生政策コンペ」、今回は11月末に企画しております「公共政策フォーラム2005ｲﾝ北九州市」の中で行うことになりました。昨年以上の参加をお待ちしております。

組織委員会委員長　長峯　純一

学生政策コンペのテーマ：「環境にも配慮したまちの活性化策」

テーマ解題
テーマの主題はまちの活性化です。フォーラムにおけるパネルディスカッションのテーマが「若松地区の中心市街地活性化」となっておりますが、議論・提案の内容を、北九州市や商店街のことに限る必要はありません。もう少し「まち」を広くとらえて構いません。何をもって「活性化」とするかも、ひとつの論点になりえます。自分たちの考える活性化を定義し、そのための方策を議論、提案してください。もうひとつの論点は、そうした方策を環境と両立する形で考えることです。環境活動そのものが昨年のテーマでしたが、今回はまちの活性化を考える上での条件として、環境のことを考えてください。

参加資格：基本的に大学学部のゼミ単位。サークル・有志等のグループでも構いませんので、ご相談下さい。

参加申込方法：2枚目のフォーマットで、ファクスあるいはEメールでお申し込み下さい。

申込締切日：6月末日

資料送付：なお参加を表明した団体に各１部「若松地区の活性化基本計画」を参考に北九州市より送付いたします。

コンペの詳細、申し込み等のダウンロード　→　(WORD / PDF)

2005年度研究大会「分権改革時代における公共政策の展開」

２００５年研究大会参加のお礼

６月４日・５日の研究大会には，大勢の会員の皆さんが浜松の地にお集まりいただきありがとうございました。会員の参加者１５４名，非会員の参加者７９名，合計２３３名の参加をいただきました。初めての地方都市での開催ということで 心配しておりましたが，例年の規模を確保できたことにほっとしております。２日間の濃密なスケジュールの中で部屋に入れない会場も出るほどの盛り上がりを 見せていただいた報告者の皆さんにも感謝申し上げます。地方行政にかかわる内 容も多く，皆さんの活発な議論が本市職員にもいろいろ刺激を与えたことであろうと思います。

なお，静岡文化芸術大学の学生延べ２４人，浜松市職員延べ３５人に大会の運営を支援していただきました。初めての経験で不慣れな点が多々あったと存じますが，お許しを願いたいと存じます。

浜松はうなぎだけではありません。これを機会に浜松再発見をしていただけた ら幸せです。またのお出でをお待ちしています。

2005年度大会開催実行委員長
川上正芳（浜松市）

研究大会開催のお知らせ

日本公共政策学会200５年度総会・研究大会を、下記の通り開催いたします。多数の会員各位のご参加と、活発な研究交流が展開されることを願っております。

2005年度大会開催実行委員長　　川上　正芳

日　時　2005年６月４日（土）・５日（日）　午前９時受付開始
場　所　アクトシティ浜松（コングレスセンター及び研修交流センター）
住所：浜松市板屋町１１１－１（ＪＲ浜松駅前　会場へのアクセスは◆頁の地図をご参照ください

日本公共政策学会200５年度大会開催実行委員会

川上 正芳　　上野 征洋　　田中　啓　　伊藤 恭彦　　斎藤 愼五

企 画 趣 旨

2005年度企画委員長　真山達志

本学会は、公共政策研究に関わる様々な研究領域に属する研究者や実務家によって構成されていることから、研究大会の内容も多岐に渡っていましたが、今年度は共通テーマとして「分権改革時代における公共政策の展開」を設定しました。

分権改革が急速に進展している現在、国・地方の新たな関係、自治体の政策形成能力の向上、市町村合併、税・財政制度の改革などが大きな論点となっています。また、少子高齢化、国際化の進展、ＩＴの急速な進歩、自然災害の多発という現代社会においては、様々な分野の政策に新たな視点や手法が求められています。このような状況のもとで、自治体を中心とした政策対応の実態と課題を明らかにするとともに、これからの自治体政策の展開にとって有効な理論や手法を開発することに、学会として貢献していこうという思いからこの共通テーマを設定しました。企画委員会としては、このテーマに基づいてシンポジウムや分科会を企画しています。

また、今年度の特徴として、公共政策研究に従事してまだ日が浅い新進の研究者の皆さんに、積極的に発表してもらうことにしました。会員の皆さんが、先進かつ斬新な研究報告に刺激を受け、また新進研究者の皆さんが会員から多くの示唆や助言を受けることができる場が提供できれば幸いです。

日本公共政策学会2005年度企画委員会
○　真山 達志　伊多波 良雄　今川　晃　衛藤 幹子　川上 正芳

鈴木　庸夫　原田 久

なお、学会員以外の方が大会への参加をご希望される場合には、参加料として1000円をいただいています。当日の受付にてお支払いください。

2005年大会プログラム、会場プログラム、宿泊施設のご案内（PDF形式、350kb）

2005年度研究大会セッション企画の募集について－ 2005年度企画委員会

日本公共政策学会2005年度の研究大会において、 会員の企画によるセッションを23件設定することにしました。下記の要領で企画を募集しますのでご関心のある会員はご応募ください。なお詳細につきましては、日本公共政策学会会報 No.18（2004年12月15日発行）をご覧ください。

募集内容:公共政策に関する未発表の研究成果で あり、90分間で報告(発表)1名、討論、質疑応答が完了する企画。

企画テーマは自由。応 募案の中から企画委員会で審査、調整の上、実施する企画を決定します。

報告日時:2005年6月5日(日)午前(詳細は企画代表者に直接通知します)。

報告場所:アクトシティ浜松(静岡県浜松市)。

応募条件:原則として、報告者、討論者等のうち 過半数が日本公共政策学会の会員であること。なお、応募手続やその他の連絡は原則としてEメー ルで行いますので、企画代表者はEメールが使えることを条件とします。

応募方法:A4判2ページ程度に企画案をまとめ、 2005年2月5日までに下記宛にEメールで提出してください。

企画案には、代表者氏名・所属・ 住所・電話番号・Eメールアドレス、報告者等として想定されている方があればその氏名・所属を 必ず記入してください。

応募・問い合わせ先:企画委員会委員長(同志社大学) Eメール:　tmayama@mail.doshisha.ac.jp

2005年度研究大会若手研究者による研究報告の募集について－2005年度企画委員会

日本公共政策学会では、学会に所属する若手研究者による研究報告の機会を設け、意欲溢れる研究を奨励しています。2005年度の研究大会においても、若手研究者の研究報告機会を設定することにしています。下記の要領で研究報告を募集しますので、ふるってご応募ください。なお詳細につきましては、日本公共政策学会会報 No.18（2004年12月15日発行）をご覧ください。

募集内容：公共政策に関する未発表の研究成果であり、口頭により20分以内(時間厳守)で報告できるものを最大で16件。

報告テーマは自由ですが、報告は原則として個人とします。応募者の中から企画委員会で審査の上、報告者を決定します。なお、会員による司会者を配置しますが、討論者は設定しませんので、報告後は10分以内の会場との質疑応答を行う予定です。報告日時:2005年6月4日(土)午後または5日(日)午前(詳細は報告者に直接通知します)。

報告場所:アクトシティ浜松(静岡県浜松市)。

応募資格:日本公共政策学会の会員で、大学院博士後期課程在籍者(それに相当する機関を含む)または修士学位を取得後10年未満のもの。年齢による制約は設けませんが、おおむね40歳以下を目安とします。

応募時点で非会員であっても、 同時に入会申込を行うことにより応募可。

応募・問い合わせ先:企画委員会委員長(同志社大学) Eメール: tmayama@mail.doshisha.ac.jp

学生政策コンペの参加募集

「公共政策フォーラム 2005 ｲﾝ北九州市」

今年で 3 回目になります「学生政策コンペ」、今回は 11 月末に企画しております「公共政策フォーラム 2005 ｲﾝ北九州市」の中で行うことになりました。昨年以上の参加をお待ちしております。

学生政策コンペのテーマ：「環境にも配慮したまちの活性化策」

テーマ解題

テーマの主題はまちの活性化です。フォーラムにおけるパネルディスカッションのテーマが「若松地区の中心市街地活性化」となっておりますが、議論・提案の内容を、北九州市や商店街のことに限る必要はありません。もう少し「まち」を広くとらえて構いません。何をもって「活性化」とするかも、ひとつの論点になりえます。自分たちの考える活性化を定義し、そのための方策を議論、提案してください。もうひとつの論点は、そうした方策を環境と両立する形で考えることです。環境活動そのものが昨年のテーマでしたが、今回はまちの活性化を考える上での条件として、環境のことを考えてください。

参加資格：基本的に大学学部のゼミ単位。

サークル・有志等のグループでも構いませんので、ご相談下さい。

参加申込方法：2 枚目のフォーマットで、ファクスあるいはＥメールでお申し込み下さい。

申込締切日：6 月末日

資料送付：なお参加を表明した団体に各１部「若松地区の活性化基本計画」を参考に北九州市より送付いたします。

＜フォーラム全体のスケジュール案＞

11 月 26 日（土）　学生政策コンペ（場所：北九州市）

14：00□ 18：00 予定

学生たち懇親会

11 月 27 日（日）　フォーラム（場所：北九州市）

基調講演

パネルディスカッション

テーマ「若松地区の中心市街地活性化はどうあるべきか？」

連絡・問合せ先：

日本公共政策学会　組織委員会委員長

関西学院大学総合政策学部　長峯純一

669-1337　三田市学園 2□ 1　079-565-7646（研究室）　　e-mail：nagamine@ksc.kwansei.ac.jp

FAX 送信

FAX 宛先　079-565-7605
　　関西学院大学総合政策学部　長峯研究室

学生による政策コンペ参加申込書

下記のフォームに記入の上、FAX か、あるいは同様の内容を E メールにてお送り下さい。申込み締切りは 6 月末日までとします。E メールでの申込みは、以下のアドレスまで。

nagamine@ksc.kwansei.ac.jp

大学・学部名	
ゼミ等指導教員名	
教員の連絡先住所	
教員の連絡先電話番号	
教員の連絡先 FAX 番号	
教員の連絡先 e-mail	
学生代表者名	
学生代表者連絡先電話番号	
学生代表者の連絡先 e-mail	
学生参加人数（概数）	

＊伏せておきたい情報でしたら、空欄にしておいて下さい。
＊参加者には、後日、政策コンペのスケジュール・発表方法などについての情報をお知らせします。
＊参加ゼミ・学生には、宿泊の案内など、できるだけの情報提供を致します。
＊以後、連絡は基本的に e-mail で行いたいと思います。
＊参加ゼミ数や人数によっては、時間など多少の変更がありうることをご了解下さい。

公共政策フォーラム2005 イン　北九州・若松

平成１７年１１月２７日

平成 13 年策定・中心市街地活性化基本計画より抜粋

市街地の整備改善のための事業

①地域づくりのための拠点性の向上

地域経済の中心としての経済活力を再構築するために、これまでの都市の多様なストックを活かす。

○若松Ａ地区市街地再開発事業（ベイサイドプラザ若松）

○若松病院改築事業

②骨格となる交通体系の整備

中心市街地の幹線道路は自動車交通が多く、中心部の商業地は孤立的な構成となっているため、基幹道路を改善する。

○本町桜町線、一般国道４９５号本町　拡幅事業

○新若戸道路整備事業

③うるおいを与える環境の創出

自然に配慮した環境形成と、地区独自の景観整備やまちかどの修景、まちなみでの植栽等うるおいのある環境づくりに努める。

○高塔山公園の整備

○若松南海岸通り整備事業

④賑わいを創る地域の形成

まちの賑いは住む人たちによって創られるものであるとの考えから、住宅市街地の形成を積極的に進める。

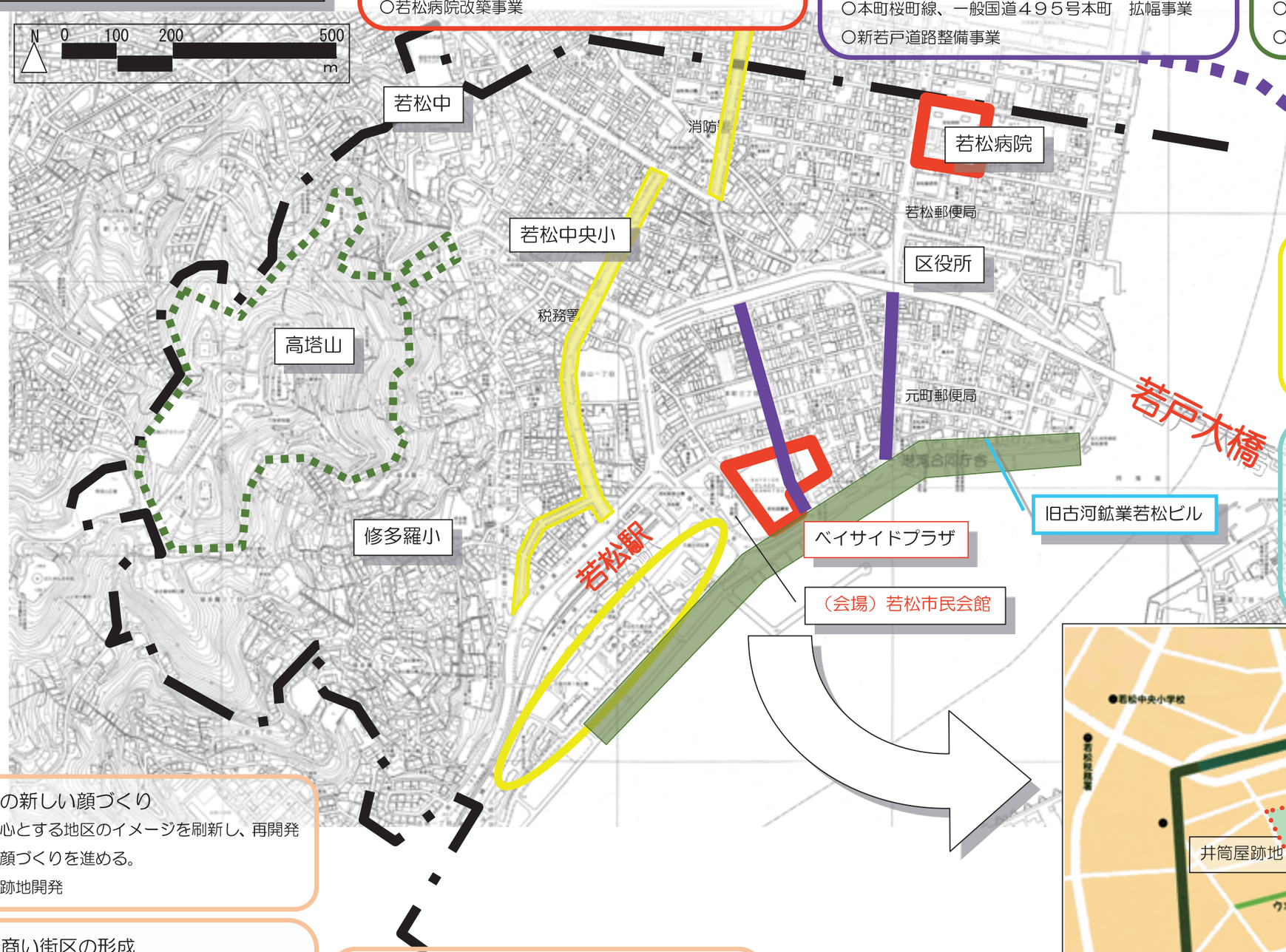
○久岐の浜地区住宅整備事業

○安心歩行エリアの形成事業（ｺﾐｭﾆﾃｨﾀﾞｰﾝ形成事業）

⑤街の成り立ち伝承と個性づくり

石炭産業により隆盛を極めた時代の建物や、郷土作家の居宅などの保存活用によって街の成り立ちを伝承すると共に地域の独自性の発見からの新たな個性あるまちづくりの原資の形成に努める。

○旧古河鉱業若松ビルの保存活用



①商業拠点の新しい顔づくり

商店街を中心とする地区のイメージを刷新し、再開発を行い新たな顔づくりを進める。

○若松井筒屋跡地開発

②高感度な商い街区の形成

今日的で話題性のある集積地とするため、ハードからソフトに至るまで感度の高い商店街の形成を図る。

○植栽・プランターの設置

○広場の活用(ｵｱｼｽ公園等)

③商業地運営のシステム構築

活性化のための各種事業を効果的に推進するために、商業地の運営組織と運営のシステムの構築を図る。

○商店街振興の勉強会・異業種交流等の開催

商業の活性化のための事業

凡例

――――（実線）：実施済み

---------（破線）：計画および実施中

平成 17 年度 日本公共政策フォーラム IN 北九州

□ 宿泊プランのご案内□

１）宿泊のご案内

◎ 宿泊期間／平成１７年１１月２５日（金）□ １１月２７日（日）３日間
（上記以外の宿泊についてもご希望の方はお申込み下さい。）

１．宿泊プラン（一泊朝食付き、税金･サービス料込み）

プラン	ホ テ ル 名	客室タイプ	宿泊料金	
ＡＳ	リーガロイヤルホテル小倉	ツインの お一人様利用	11,000 円	ＪＲ小倉駅北口から歩いて３分
ＡＴ		ツ イ ン	9,000 円	
ＢＳ	ステーションホテル小倉	シングル	9,000 円	ＪＲ小倉駅構内
ＢＴ		ツイン	8,000 円	
Ｃ	ブルーウェーブイン小倉 （旧チサンホテル）	シングル	8,000 円	ＪＲ小倉駅北口から歩いて３分
Ｄ	西 鉄 イ ン 小 倉	シングル	6,000 円	ＪＲ小倉駅南口から歩いて５分

申込書にプラン別記号をご記入下さい。

★ 上記宿泊料金は一泊朝食付き 税金・サービス料込みのお一人様あたり料金です。

★ いずれのホテルもお申込順の割り当てとなります。ステーションホテル小倉、リーガロイヤルホテル小倉は毎回、お申込が多くご希望に添えない場合がございます。ご要望に添えない場合は、第２希望のホテルもしくは同じクラスの別のホテルの割り当てとなります。
西鉄イン小倉の朝食は、パン、コーヒー、紅茶とおにぎり、味噌汁のセルフサービスです。

２）ご変更・お取り消しについて

◇ ご変更・お取り消しは、ＦＡＸにて承ります。お申込みの際、ご利用頂いた用紙に変更事項を加筆・修正なさって下記ＪＴＢまでＦＡＸにてご送信下さい。

◇ お申込み後の取り消しにつきましては、下記のとおり取り消し料を申し受けます。

旅行開始の日からさかのぼって 次の日に当たる日以降	２日前まで	前日以降	旅行開始日・当日 （午前 12 時まで）	無連絡の解除
（宿泊プラン）ご旅行代金の内右記の額が取消料となります。	無料	20％	50％	100％

３）参加申し込み方法

① 別途参加申込書に必要事項をご記入の上、ＪＴＢビジネスサポート九州 コンベンションサポートセンター 宛、郵送又はＦＡＸにて期日までにお送り下さい。

② 受付け後、受領確認証をＦＡＸにてお送りいたします。

③ 後日、大会２週間前を目途に『宿泊確認証』兼『旅行代金計算書』を郵送にてお送りいたします。お送りした券類は当日ホテルまでご持参下さい。

④ 振込に際しましては、振込人名には必ず登録番号、参加申込者と同一の方のお名前を記載していただくようご協力をお願い致します。（銀行振込手数料は各自でのご負担をお願い申し上げます。）

⑤ 事務手続き・通信費用として<u>お一人様５００円</u>を申し受けます。複数の方の分を一括にお振り込み頂いて構いませんが、お申込のお人数すべてに対し、旅行取扱手数料がかかります。

４）申し込み先・締切

ＪＴＢビジネスサポート九州 コンベンションサポートセンター
〒810-0072 福岡市中央区長浜１□ １□ ３５ 新ＫＢＣビル ６階
TEL：０９２□ ７５１□ ２１０２ FAX：０９２□ ７５１□ ４０９８
担当 中野、石田

<u>◇お申込み期限 平成１７年１０月３１日</u>

（月）

	新規
	変更
	全て取消し

※ いずれかに”○”を付して下さい。

平成17年度 日本公共政策フォーラム IN 北九州

FAX番号 092−751−2102
（JTBコンベンションサポートセンター）

宿泊 申込書（交通問合せシート）

当社記入欄	受付日		受 付 No.	

お申し込み代表者氏名	フリガナ	都道府県名		所属　大学・研究室名	大学（大学院） 学部　研究室
ご連絡先（書類送付先）	〒 （自宅・勤務先）			TEL	
				携帯（もし可能ならご記入ください）	
				FAX	

No.	所　属	フリガナ 参加者氏名	性別	年齢	宿泊プラン		宿泊日			ツインの場合の同室の方のお名前
					第一希望	第二希望	11/25	11/26	11/27	
例	北九州市立大学	フクオカ　タロウ 福岡　太郎	(男)・女	21	AS	BS		○	○	
1			男・女							
2			男・女							
3			男・女							

※ 必ず控えをおとりください。

受付業務代行個所：
JTBビジネスサポート九州 コンベンションサポートセンター
担当：　中野、石田
〒 810−0072　福岡市中央区長浜1-1-35 新KBCビル6階
TEL：092-751-2102　FAX ：092-751-4098

交通機関のお手配をご希望／ご相談の場合は、下記欄をご利用ください。

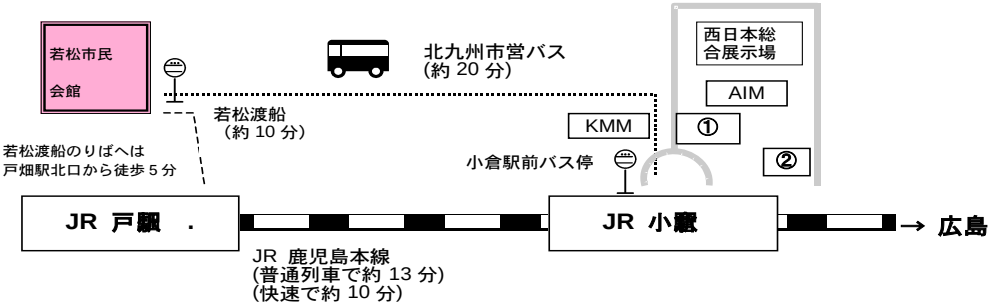
往路出発日　月　日　時ごろ　（　　）空港／（　　）駅 発　人数（　）

復路出発日　月　日　時ごろ　（　　）空港／（　　）駅 発　人数（　）

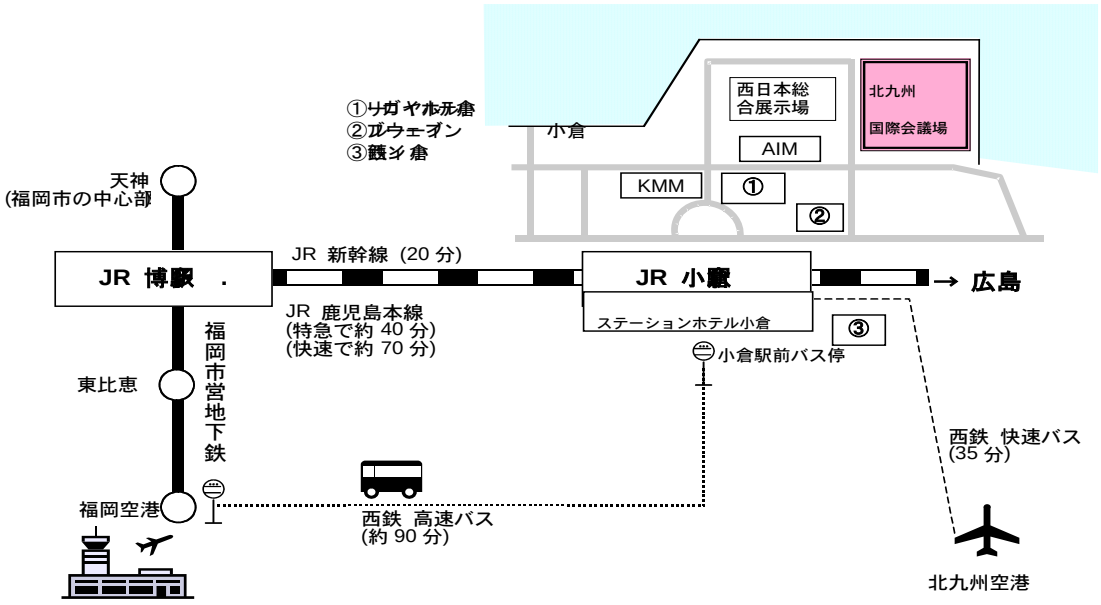
※ 教員同行の（有・無）

○ 航空機は７名以上、JR（JR西日本、四国、九州）は９名以上で団体料金の適用と成ります。
○ 団体料金と個人料金はキャンセル料の利率に違いがあります。ご注意ください

若松市民会館　⇔　北九州・小倉駅地区 (交通案内)



福岡空港　⇔　北九州・小倉駅地区 (交通案内)



東京から

航空機利用　羽田空港□ 北九州空港　：１日４便　（約１時間３５分・片道 31,300 円）
航空機利用　羽田空港□ 福岡空港　　：１日 45 便（約１時間４５分・片道 31,300 円）
＋新幹線 博多駅□ 小倉駅：１時間に 4□ 5 便（約 20 分　・片道 2,050 円）
新幹線利用　東京駅□ 小倉駅：１時間に 1□ 2 便（約５時間 50 分　・片道 31,300 円）

大阪から

新幹線利用　新大阪□ 小倉駅：１時間に 2□ 3 便（約２時間 30 分　・片道 13,240 円）

申込先：〒８０３－８５０１
北九州市小倉北区城内１番１号
北九州市建築都市局開発調整部計画調整課　石橋あて
ＴＥＬ：０９３－５８２－２８６４
ＦＡＸ：０９３－５８２－２５０３
E-mail：takamichi_ishibashi01@mail2.city.kitakyushu.jp

「公共政策フォーラム２００５イン北九州・若松」参加申込書

平成１７年１１月２６日（土）－２８日（月）に開催される上記フォーラムに申し込みます。

氏　　名	
所　属　先	
住　　所	
電 話 番 号	
Ｆ　Ａ　Ｘ	
Ｅ－ｍａｉｌ	＠
参 加 予 定 ○をつけてください。	２６日（学生コンペ） ２７日（基調講演・ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ・交流会） ２８日（エクスカーション）

※　交流会・エクスカーションは参加料を別途いただきます。
※　団体で申し込まれる場合、代表者のみ上表に記入いただき、参加者全体がわかる書類を別添していただいても結構です。

公共政策フォーラム2005 イン北九州・若松

若松地区の中心市街地活性化はどうあるべきか？

2005年 11月27日(日) 13:00→17:30

若松市民会館 大ホール

北九州市若松区本町三丁目13-1

基調講演

「新しい地域経営モデルの提案
ー私が挑戦した改革の考え方ー」

北川　正恭（まさ やす）氏

早稲田大学大学院教授、前三重県知事

1944年生まれ。1967年早稲田大学第一商学部卒業。三重県議会議員（3期連続）、衆議院議員（4期連続）、三重県知事（2期連続）を歴任し、現在、早稲田大学大学院公共経営研究科教授、「新しい日本をつくる国民会議」（21世紀臨調）代表。

達成目標、手段、財源を住民に約束する「マニフェスト」を提言するなど、地方分権の旗手として活躍する氏が、これまで挑戦してきた改革の数々を基に、新しい地域経営モデルを提案します。

■主　催／ **公共政策フォーラム2005 イン北九州・若松 実行委員会**
（日本公共政策学会、北九州市）

■後　援／ 若松を愛する会、公立大学法人北九州市立大学、北九州商工会議所、(財)西日本産業貿易コンベンション協会、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、西日本新聞社、日本経済新聞社、時事通信社、(社)共同通信社、NHK北九州放送局、RKB毎日放送、九州朝日放送、TNCテレビ西日本、FBS、TVQ九州放送

公共政策フォーラム2005 イン 北九州・若松

若松地区の中心市街地活性化はどうあるべきか?

ごあいさつ

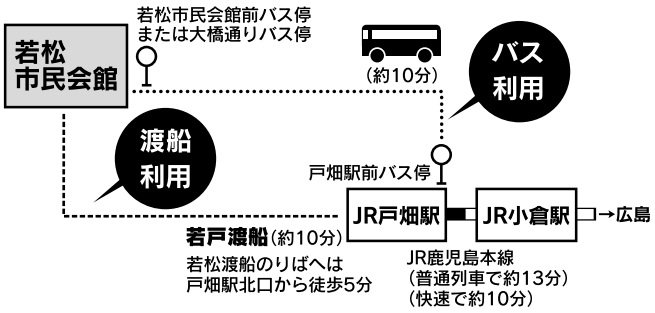
近年、消費者のライフスタイルの変化などを背景として、中心市街地の空洞化現象が深刻化してきており、中心市街地の再活性化は、官民の協働で解決すべき社会的課題のひとつとなっています。

北九州市若松区においても、石炭産業の発展とともに、中心市街地が形成されてきたものの、時代の変化に伴って中心部の活力は低下しています。

その一方で、北九州エコタウン事業やひびきコンテナターミナルの整備など、新たな事業が展開されており、こうした背景の中で、中心市街地の再構築への取組が進められています。

今回のフォーラムは、北川正恭氏による地域活性化に資する基調講演を受け、若松区をケーススタディに、中心市街地の活性化の方向性とあり方、人材育成と活用、官民の協働、住民参加など、再生の方法論について、新進気鋭の学者と実務家を招きパネルディスカッション形式で議論を行います。

【会場のご案内】



※駐車台数に限りがあるため、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

【申し込み方法】

- ●申し込み期限：11月4日(金)
- ●申し込み方法：往復はがき
- ●記 入 事 項：住所、氏名、年齢、電話番号
- ●申 し 込 み 先：北九州市建築都市局開発調整部計画調整課
  〒803−8501　北九州市小倉北区城内1−1
  TEL：**093-582-2864**

※申し込み期限を過ぎた場合も気軽にご相談下さい。

Program

プログラム概要

11月27日(日)　若松市民会館・大ホール

13:00 — 13:30

開会挨拶

日本公共政策学会、北九州市

13:40 — 14:40

基調講演

「新しい地域経営モデルの提案 ー私が挑戦した改革の考え方ー」

(早稲田大学大学院教授、前三重県知事)　北川　正恭(まさ やす)氏

14:50 — 15:30

学生による政策コンペ発表

テーマ：**「環境にも配慮したまちの活性化策」**

15:40 — 17:30

パネルディスカッション

「若松地区の中心市街地活性化は どうあるべきか？」

【コーディネーター】

齋藤　貞之氏（北九州市立大学経済学部長）

立教大学大学院経済学研究科博士課程単位取得。北九州大学商学部(現北九州市立大学経済学部)助教授などを経て1991年より同学部教授。
専門：経営組織論、経営戦略論、公企業経営論

【パネリスト】

小林　秀徳氏（中央大学大学院公共政策研究科教授）

一橋大学大学院商学研究科博士課程単位修得。成城大学経済学部教授、中央大学総合政策学部教授などを経て現職。
専門：政策科学方法論、システムダイナミックス

根岸　裕孝氏（宮崎大学教育文化学部助教授）

九州大学大学院経済学研究科修士課程修了。
(財)日本立地センター研究員などを経て現職。専門：地域経済政策

矢部　拓也氏（徳島大学総合科学部助教授）

東京都立大学大学院社会科学研究科博士課程(社会学専攻)中退後現職。
専門：都市社会学、地域社会学、社会調査法

森田　光徳氏（若松を愛する会会長）

学習院大学政治学科卒業。1964年よりシャボン玉石けん(株)代表取締役社長。まちづくり団体「若松を愛する会」の会長として、若松の賑わいづくりに取り組む。

竹内　裕二氏（NPO法人まちのカルシウム工房理事長）

北九州市立大学大学院社会システム研究科博士課程終了。
NPO法人まちのカルシウム工房の理事長として若松を拠点にまちの活性化に関わる活動を行う。

ポスターセッション：中心市街地活性化のための実践的政策研究手法(仮題)
報告者：小林秀徳氏(中央大学大学院公共政策研究科教授)、
夏目真一氏(横須賀市都市政策研究所研究員、中央大学研究開発機構客員研究員)

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています。

日本公共政策学会 2005 年度総会・研究大会開催のご案内

共通テーマ　「分権改革時代における公共政策の展開」

日本公共政策学会 200５年度総会・研究大会を、下記の通り開催いたします。多数の会員各位のご参加と、活発な研究交流が展開されることを願っております。

200５年度大会開催実行委員長　川上　正芳

日　時　2004 年６月４日（土）・５日（日）　午前９時受付開始
場　所　アクトシティ浜松（コングレスセンター及び研修交流センター）
（住所 : 浜松市板屋町１１１□１（ＪＲ浜松駅前　会場へのアクセスはｖ頁の地図をご参照ください。）

日本公共政策学会 200５年度大会開催実行委員会
川上 正芳　上野 征洋　田中　啓　伊藤 恭彦　斎藤 慎五

企 画 趣 旨

200５年度企画委員長　真山達志

本学会は、公共政策研究に関わる様々な研究領域に属する研究者や実務家によって構成されていることから、研究大会の内容も多岐に渡っていましたが、今年度は共通テーマとして「分権改革時代における公共政策の展開」を設定しました。

分権改革が急速に進展している現在、国・地方の新たな関係、自治体の政策形成能力の向上、市町村合併、税・財政制度の改革などが大きな論点となっています。また、少子高齢化、国際化の進展、ＩＴの急速な進歩、自然災害の多発という現代社会においては、様々な分野の政策に新たな視点や手法が求められています。このような状況のもとで、自治体を中心とした政策対応の実態と課題を明らかにするとともに、これからの自治体政策の展開にとって有効な理論や手法を開発することに、学会として貢献していこうという思いからこの共通テーマを設定しました。企画委員会としては、このテーマに基づいてシンポジウムや分科会を企画しています。

また、今年度の特徴として、公共政策研究に従事してまだ日が浅い新進の研究者の皆さんに、積極的に発表してもらうことにしました。会員の皆さんが、先進かつ斬新な研究報告に刺激を受け、また新進研究者の皆さんが会員から多くの示唆や助言を受けることができる場が提供できれば幸いです。

日本公共政策学会 200５年度企画委員会
○　真山 達志　伊多波 良雄　今川　晃　衛藤 幹子　川上 正芳　鈴木　庸夫　原田　久

日本公共政策学会２００５年度大会プログラム

第１日　６月4日（土）

～10:00－12:00～

シンポジウム１　「中心市街地活性化の課題と展望」

パネリスト：根本敏行（静岡文化芸術大学）　「欧米各国の取り組みとわが国」
根岸宏孝（宮崎大学）　「宮崎市中心市街地再生にむけた現況と課題」
川崎一泰（東海大学）　「中心市街地活性化と地域再生」
司会者：今川　晃（同志社大学）

～12:00－13:00～

昼食・理事会

～13:00－14:45～

通常セッション－A「指定管理者制度の政策法務」

報告者：三野　靖（地方自治総合研究所）　「指定管理者制度と自治体の責任」
山口道昭（立正大学）　「公立教育施設からみた指定管理者制度」
田中孝男（九州大学）　「公立福祉施設と指定管理者制度」
司会者：　鈴木庸夫（千葉大学）

通常セッション－B「公共政策の教育と行政職員研修」

報告者：牧原　出（東北大学）　「公共政策大学院における基礎研究と実務教育」
宮本　融（北海道大学）　「『政策実務』と『政策研究』の間」
 経済産業省の研修制度改革と北海道大学公共政策大学院の挑戦
討論者：武智秀之（中央大学）
司会者：原田　久（立教大学）

ミニシンポジウム－A「『公』概念の再検討」

報告者：木ノ下勝矢（豊前の国建設倶楽部）　「大分・福岡県境の山国川流域の連携と参加」
小林慶太郎（四日市大学）　「新しい『公』と新しい自治」
調整中（三重県）　「三重県における新しい時代の『公』への取り組み（仮題）」
司会者（予定）：真山達志（同志社大学）

～15:00－15:45～

研究報告

①報告者：西津政信（都市再生機構）　「わが国規制行政への秩序違反法制度の導入に関する比較公共政策研究」
司会者：未定

②報告者：野田　遊（同志社大学大学院）　「市町村合併の推進にともなう府県の役割に関する実証研究」
司会者：佐藤克廣（北海学園大学）

③報告者：柳瀬　昇（慶應義塾大学大学院）　「裁判員制度の立法政策 討議民主主義（deliberative democracy）理論からの再検討 」
司会者：谷　勝宏（同志社大学）

④報告者：平原隆史（京都大学大学院）　「環境情報政策の政策ネットワーク分析 エコマーク事業を事例にして 」
司会者：風間規男（同志社大学）

□ 16:00－16:50～
会長講演　細野助博（中央大学）

～17:00－18:00～
総会・日本公共政策学会賞表彰式

～18:10－20:00～
懇親会・学会賞受賞者スピーチ

第２日　6月5日（日）
～9:30－11:15～

ワークショップＡ「地域文化政策」
報告者：片山泰輔（跡見学園女子大学）　「地方自治体における文化政策の対象と政策目的」
石黒広洲（中央大学研究開発機構）　「地方行政における文化政策の健全性と先進性」
野田邦弘（鳥取大学）　「クリエイティブシティ・ヨコハマ□ 文化芸術創造都市を目指して□」
勝見博光（株式会社ケイオス）　「モントリオールの文化産業振興政策」
司会者：片山泰輔（跡見学園女子大学）

ワークショップＢ「防災の公共政策学」
報告者：林　　理（武蔵野大学）　「防災の公共政策と住民の意識」
田中　充（姫路市）　「わが国の消防行政の運用実態について」
永田尚三（武蔵野大学）　「わが国防災行政における国と地方の機能分担、権限配分の転換についての実証分析□ 防災行政、消防行政において地方分権の逆コースは始まったのか？□」
卜部敬康（奈良大学）　「心理学の役割は『心のケア』か？」　（題名等は未定）

ワークショップＣ「地方自治体の行政経営水準に関する枠組みの実証的研究」
報告者：古川俊一（筑波大学）　「自治体経営能力測定の枠組に関する実証研究」
討論者：梅田次郎（ＪＭＡＣコンサルティング）
山谷清志（同志社大学）
田中　啓（静岡文化芸術大学）

ミニシンポジウムＢ「参加と協働を支えるeコミュニティプラットフォームとWEB-GIS」
報告者：平山元英（eコミュニティふじさわ推進委員会）　「藤沢市におけるｅコミュニティプラットフォーム」
河井孝仁（東海大学）　「地域づくりポータルの可能性」
パネリスト：榊原正俊（特定非営利活動法人0563.Net）
コメンテーター：古瀬幸広（ジャーナリスト）
コーディネーター：長坂俊成（慶應義塾大学）

～11:30－12:15～

研究報告
⑤報告者：焦従勉（京都大学大学院）　「日中貿易摩擦が解決できるのか□ 政策デザインの観点から□」
司会者：未定
⑥報告者：砂原庸介（東京大学大学院）　「地方政府の政策選択□ 現状維持点（Status Quo）からの変化に注目して□」
司会者：原田　久（立教大学））
⑦報告者：堀真奈美（東海大学）　「介護保険導入と老人医療費の関係性」

司会者：井上恒雄（同志社大学）

⑧報告者：北島栄儀（京都大学大学院）　「政策決定と政治的判断・民主的熟慮□原子力政策を題材に□」

司会者：廣瀬克哉（法政大学）

⑨報告者：木原万樹子（京都大学大学院）　「義務教育制度成立過程の検証□公教育機能の復権のために□」

司会者：未定

～12：15－13：15～

昼食・理事会

～13：15－14：00～

研究報告

⑩報告者：二宮　祐（一橋大学大学院）　「政策の窓モデルを用いた1970年代高等教育政策形成過程分析」

司会者：真山達志（同志社大学）

⑪報告者：岩波祐子（参議院憲法調査会事務局）　「財政分野における憲法論議―財政過程における憲法規律の在り方―」

司会者：未定

⑫報告者：三田妃路佳（慶応義塾大学大学院）　「地方自治体における公共事業改革の政策過程□アクターの関係に着目して□」

司会者：未定

⑬報告者：林　昌宏（京都大学研究生）　「対立から協働へ□西宮甲子園浜埋立公害反対運動に見る行政と市民の関係□」

司会者：今川　晃（同志社大学）

～14：15－16：15～

シンポジウム２　「『平成の大合併』と三位一体改革」

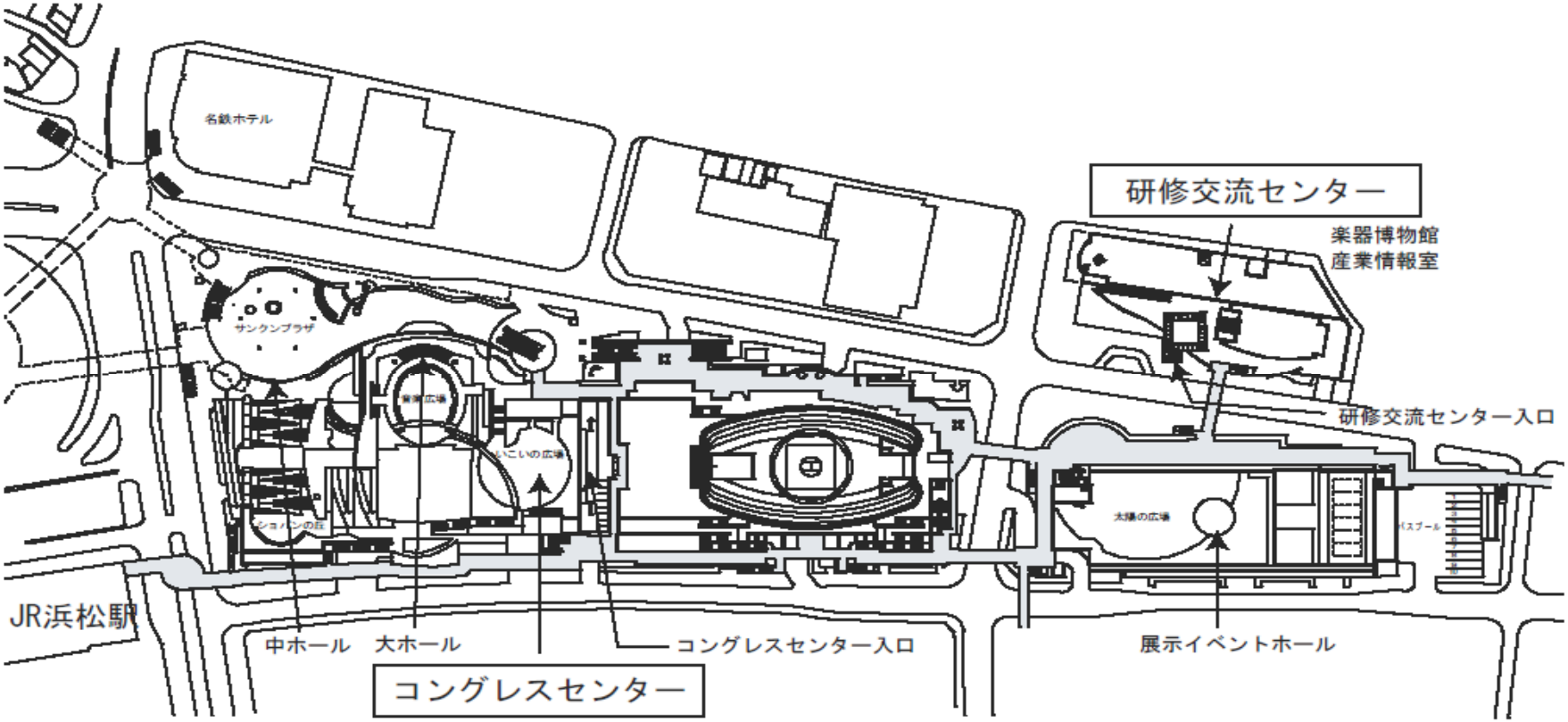
パネリスト：北脇保之（浜松市長）　「天竜川・浜名湖地域の合併への取り組み」

檜槇　貢（作新学院大学）「自主的財源本位の自治体経営は可能か□平成の大合併と三位一体改革を読む□」

長峯純一（関西学院大学）　「財政破綻に向かう市町村合併」

コーディネーター：佐々木信夫（中央大学）

アクトシティ浜松案内図



浜松市駅周辺旅館・ホテル案内

旅館名	電話(053)	アドレス	宿泊人数	料金	駅からの距離
オークラアクトシティホテル	459-0111	http://www.act-okura.co.jp/top.html	571	11,500～	徒歩　3分
浜松名鉄ホテル	452-5111	http://www.h-meitetsu-h.co.jp/	293	9,000～	徒歩　3分
グランドホテル浜松	452-2111	http://www.grandhotel.co.jp/	648	7,500～	タクシー　8分
ホテルコンコルド浜松	457-1111	http://www.concorde.co.jp/	310	7,000～	タクシー　8分
ホテル　ヴィラくれたけ	453-0880	http://www.villa-kuretake.co.jp/	100	8,000～	タクシー　8分
浜松ホテル	450-5555	http://www.hamamatsuhotel.com/	132	6,200～	徒歩　5分
浜松サゴーホテル	452-1181	http://www.3535.co.jp/hotel/sh.htm	227	6,300～	徒歩　5分
ホテルサゴーイン	456-3511	http://www.3535.co.jp/hotel/si.htm	207	6,400～	徒歩　5分
サゴーターミナルホテル	453-3515	http://www.3535.co.jp/hotel/st.htm	90	6,600～	徒歩　1分
ホテル米久	455-3131	http://www.mytrip.net/HOTEL/1626/1626.html	198	6,900～	徒歩　10分
辻梅新館	453-6644		33	5,800～	徒歩　3分
辻梅本館	453-1711		28	6,700～	徒歩　2分
辻梅旧館	454-2226		11	4,500～	徒歩　3分
ホテル　ルモンド	455-1188		100	6,300～	徒歩　5分
マルコーイン・浜松	457-0505	http://www.darwin-hotels.jp/hamamatsu	150	6,700～	徒歩　3分

ホテル明治屋	465-8111		150	5,500～	タクシー　５分
フィットネスホテル３３０	454-0330	http://www.hotel330.co.jp/hama/	128	7,738～	徒歩　３分
ビジテル本町	441-8151		126	4,410～	タクシー　９分
ホテル松本	453-0930		90	6,500～	徒歩　５分
ホテル　サウスガーデン浜松	451-1800		85	6,700～	徒歩　１分
浜松ステーションホテル	413-5300		68	6,800～	徒歩　１分
ロイネットホテル浜松	450-5575	http://www.roynet.co.jp/hamamatsu/	400	8,000～	タクシー　５分
ホテルブケ東海	456-8111	http://www.bouquet.co.jp/hamamatsu/	88	6,400～	徒歩　３分
くれたけイン　アクト浜松	459-1511	http://www.kuretake-inn.com/act/	165	6,200～	徒歩　４分
呉竹荘	453-1511		60	15,000～	タクシー　８分
豊本	452-3354		16	6,000～	タクシー　７分
アセントイン浜松	458-2611	http://www.ascentinn.jp/	36	6,300～	徒歩　５分
ホテルルートイン浜松駅東	413-1711	http://www.route-inn.co.jp/frame/fhamamatsu.htm	165	6,300～	徒歩　７分

料金は，変動がありますので，個々に確認をしてください。

お知らせ

◎５日（土）の懇親会は、コングレスセンター41 会議室にて開催いたします。会費は6，000 円（学生 3,000 円）を予定しております。開始は、18:１０からです。
会費は当日会場受付（コングレスセンター１Ｆ入口ロビー）にてお支払いください。当日申込も若干名分は可能なように手配いたしますが、準備の都合上、なるべく事前に返信用ハガキにてお申し込み下さい。

◎総会、研究大会、懇親会への出欠について、同封の返信用ハガキにて５月２１日(土)までに開催実行委員会宛にお知らせ下さい。

◎総会、シンポジウムの会場は，コングレスセンターを予定しています。

◎日本公共政策学会への入会は，当日受付にてお手続きをお願いいたします。

◎研究大会には、会員以外の方も参加可能です。資料代等を含め、若干の参加料をいただく予定です。詳細は学会ホームページにて発表いたします。

◎報告ペーパーは、当日会場受付にて販売いたします。

諸連絡先

日本公共政策学会事務局　〒108-8345　東京都港区三田２□１５□４５　慶応義塾大学法学部大山研究室
TEL　03□5427□1381　FAX　03□5427□1578
E-mail　jimukyoku@ppsa.jp
学会ホームページ　http://www.soc.nii.ac.jp/ppsaj/

200５年度大会開催実行委員会　〒430-8652　浜松市元城町１０３□２　浜松市役所企画部行政経営課
TEL053□457□2244（直通）
会場関係は，〒430-7790　浜松市板屋町１１１□１　(財)浜松市文化振興財団　川上
TEL　053□451□1120　FAX　053□451□1123
E-mail　kawakami@actcity.jp